部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2012年７月26日
第122号

キリスト教保育連盟　神奈川部会　２０１２年度主題

「あふれる愛－小さきものとともに－」

聖句「愛する者たち、
互いに愛し合いましょう」　－ヨハネの手紙Ⅰ 4章７節－

テーマ〈存在の可愛らしさと美しさ〉

福音幼稚園
園長　佐　竹　拓　平

聖　句

『野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。』

（マタイ福音書6章28節）

道端に咲いている小さくて可愛い花を見ると、イエス様の御言葉が思い出されます。ここで言う「野の花」がどんな花か分かりませんが、十数年前にイスラエル（聖地）旅行で行った際に、シクラメンの原種を見ました。日本で見るシクラメンの美しさはありません。そこら辺に咲いているその花は、小さく目立たない花で、普通に歩いていたら踏みつけてしまう野の花でした。でも、かがんで良く見ると可愛らしい美しい花です。イエス様はこの花を見て、「野の花」と言ったのではないかと思いました。なぜかと言うと、上からの大人目線では、その存在にすら気付かないのに、自分を低くしてかがむことで、その可愛らしさと美しさに気づくからです。

普段、人はなぜ生きているのか、どうして存在するのか、など考えずに過ごしています。しかし、挫折したり、苦しみや悲しみを経験したり、自分が生きていることが他の人の足手まといになっていると思う時に、「人はなぜ生きなければならないのか」という疑問が起こってきます。この世の中では、何かを行なうことによって評価される傾向にあります。しかしイエス様は、何かをすることではなく、生かされて、存在していることの美しさを私たちに教えて下さっています。

『もう一つの道―競争から共生へ』という本の中に「アリの社会は、よく働くアリと、普通に働くアリと、働かないアリが六対三対一の割合で構成されていると言います。実際的に働かないアリを排除したら、残りのアリがちゃんと六対三対一に再配分され、働かないアリが必ず出てくるのです。働かないアリであっても、アリ社会にとってはなにか役にたつ機能を果たしているからこそ、排除されずに存在しているので

す」という言葉があり、心に深く刻みこまれました。この本の通り、私も人間社会は評価されない人を排除する事で悪い体系、ゆがんだ社会構成になってしまったと思います。

聖書の御言葉において語られていることは、飼い葉桶に生まれ、十字架に至る生涯を通して、この世を愛してくださった神のひとり子、イエス・キリストの愛のまなざしの中で、一人一人のかけがえのなさ、存在の美しさと尊さを発見することができるという事です。神さまは、その人の行為・行動で評価せず、存在の美しさを見ておられるのです。イエス様は、「野の花」を見て、子どもたち一人一人の存在の可愛らしさと美しさに気づくように、私たちに、単に見るのではなく、「注意して見なさい」と言われているように思います。

《テーマ》
絵本とともに…
～我が園の場合～

絵本の部屋から

横浜英和幼稚園
菰田 とみ子

私たちは「絵本の部屋」が、子ども達にとって、絵本との出会いの場、生涯続く読書人生の入り口になってほしいと願っています。読書が一人一人の子どもの人生をきっと豊かにしてくれると考えているからです。

幼稚園の絵本の部屋は、園生活の中で絵本に親しむ場であると共に、週一回の貸し出しによって、絵本の楽しさを家庭にまで広げています。絵本は幼稚園の仲間と一緒に味わう楽しさもありますが、家族の膝の上やあぐらの中でゆったりと味わう楽しさもあり、その絆をより強くするにも有効だからです。

幼児期の子ども達は、生活範囲も行動範囲もごく限られたものですが、大人にすぐる想像力をもっています。そして、その翼を借りて、時空を越えてさまざまな体験ができます。わくわくしたり、どきどきしたり、喜んだり、悩んだり…心を動かして、成長していきます。もちろん、はじめから冒険や長い読み物を楽しめるわけではありません。絵と心地よいリズムの言葉を目と耳で楽しみながら、身近なことから想像をふくらませる楽しさを経験して、絵本体験を積み重ねていきます。

ちなみに、私たちの園の五月のお気に入りは、年少組では、「てじな」と「ふしぎなナイフ」、年中組では、「よかったねネッドくん」と「バルバルさん」、年長組では「いやいやえん」と「もりのへなそうる」…。

絵本との付き合いが進むにつれて、楽しみ方も変わってくるのがわかります。

心を育む絵本の読み聞かせ

ＹＭＣＡマナ保育園
園長　井上 孝一

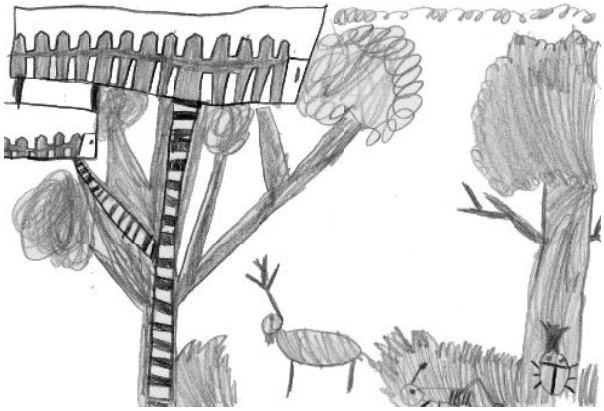
子どもたちは日々の保育の中で、五感を研ぎ澄まして楽しみ、心を育んでいます。この心の育ちに、絵本の読み聞かせは大きな可能性があるようです。じっと聞き入る事で集中力が育ち、自然と創造力が育ちます。

教育評論家の尾木直樹さんは、「読み聞かせで、時間と空間を共有できる事は、とても大切。読み手と子どもが同じページを一緒に見るのは、心理学的に『共視』と言い、信頼関係を築く大切な営みとなる」また、少し怖い場面も、「一緒にドキドキ・ハラハラしたり、ホッとする事で、気持ちを共有し『一緒にいるから大丈夫だよ』というメッセージとなる」と言っています。『共感』『繋がり』『寄りそう心』が育つ瞬間です。

保育者が、優しい声で語りかけ、子ども達がじっと絵を見つめながら、お話を聞いている。この姿は、イエス様が子どもたちを近くに呼び語りかけている姿に、似ているのではないかと思います。イエス様のお話をじっと聞き入っている事で、子どもたちは心が育ち、愛に満たされていたのだと思います。

大好きなイエス様の誕生物語の絵本、「ひつじかいの夜」は、パパ・ママと読んでほしい一冊です。

マナ保育園では、お家でパパ・ママが読み聞かせ、子どもがパパ・ママをもっと好きになってほしいと願い、「マナ文庫」という本の貸し出しを行っています。貸し出しの金曜日（返却は二週間以内）には、読んでもらいたい本を選ぶ子どもたちで本棚の前が一杯になります。きっとお家で、優しい時間が流れていることと思います。



子ども達とめぐる絵本の旅

大師新生幼稚園
副園長　田中 真紀

本って、素敵なものですね！今ここに居ながらにしてアフリカの大地に立っていたりアラビアの迷路をさまよっていたり蝶になったり鳥に乗ったり。また、本は種のようですね。心にまかれた種が何年も経て芽を出し花を咲かせ、いつまでも枯れずに香り続けているような。『ここころ』を育てることを最も大事な事として保育の日々を過ごしています。絵本の読み聞かせの時間は楽しい出会いの旅の時間です。

年少組の先生のおすすめは『神様からのおくりもの』と紙芝居『ごきげんのわるいコックさん』見ている子ども達とのかけあいを楽しみながら、お話の旅にでかけます。印象深く心に残ります。

年中組の先生は『ちょっとだけ』『わたしとあそんで』『もりのなか』お話によって声のトーンを変える時と変えない時があります。間を大切にすると声を替えなくても子ども達は一人ひとりのイメージで役柄を感じながら聞くことができます。

年長組の先生は『きょだいなきょだいな』『ちか１００かいだてのいえ』子ども達が物語を楽しめる様に声の大小・スピード・間を大切にしています。一緒に楽しんで物語の世界を共感・共有しています。毎週一回の絵本貸し出し日も楽しみです。お家の方に読み聞かせて頂くことで親子のふれあいが深まります。絵本貸し出しノートは子ども達の成長の記録になります。

自ら振り返りますと担任した子ども達や、かつて小さかった我が家の子ども達は『だるまちゃんシリーズ』『おしいれのぼうけん』ですね。

子どもたちとお話の世界へ

めぐみの子幼稚園
濱田 真理子

絵本選びは、色彩が美しく、ページをめくるごとに、絵がお話を語っているもの、季節、年齢に合ったもの、子どもたちが、興味をもっているものなどを大切にしています。

いつでも子どもたちが絵本を身近に感じ、手に取りやすいように、各保育室に小さな本棚を置き、絵本を並べています。一対一で読むときは、膝にのせて、保育者の声と体温を感じながら。数人が集まると、皆が見えるように絵本を持ちます。クラスの集まりの中で読む時は、絵本の世界に集中できるように、読み手の背後には、集中を遮るようなものがないか、周りの音は静かであるかなど環境を整え、読み手は絵本を下読みし、滑らかに読めるようにすることや、絵本がしっかり開くようにくせをつけておくことに配慮します。

保育の中で子どもたちと一緒にお話の世界へ入っていき、その世界を楽しむことを大切にしています。

絵本の部屋には、千冊を超える絵本を置いています。週1回、年長は2冊、年中・少は1冊、好きな絵本を借りて帰り、家庭で読んでもらう機会を作っています。絵本の貸し出しの係には、保護者の方が入ってくださいます。絵本の楽しさを知っている子どもたちは、遊びの中でも想像力を働かせて心豊かに過ごしています。

新任歓迎会に参加して

片瀬のぞみ幼稚園
高橋 友里恵

初めての研修、歓迎会という事で緊張して臨んだのですが、穏やかな雰囲気の中貴重なお話が聞け、最後にはみんなで一団となってゴスペルを歌い充実した時間を過ごす事ができました。

特に印象的だったのは、島田牧師先生の「あふれる愛―小さき者とともに」の説教でお話があった「あふれる愛」というのは神様が私達に愛を注いで下さっているといったお話です。私は幼稚園教諭になって5年目になります。そして、今年度からキリスト教保育に携わり年少組の担任をしているのですが、幼稚園に慣れてきたばかりでまだお母さんの元を離れて不安がたくさんある子ども達の目線に立って神様が私達にして下さっているようにあふれる愛を注いで保育ができているか。神様がして下さっていることを受けて愛を持って子ども達と関わることができ

ているか。

「子ども達を預かり、保育していく」という事を見直す事ができました。子ども達の目線に立つという事は、どんなに背が高くても腰が痛くてもしゃがみ、子どもと目線を合わせてコミュニケーションを取ることで愛が限りなく近づく時であり、愛という関係に結ばれるというお話が強く心に残っています。私は167㎝身長があるので、子ども達からすると「すごく大きな先生」と思われているでしょう。そんな私だからこそ、しゃがみ目線を合わせるというのは本当に大切な事だと実感しました。この言葉をいつも心で想い、今後の保育でもっとあふれる愛が注げるようにしていきたいと思います。そして、子ども達と共に歩み一歩一歩成長していきたいと思います。

一人ひとりを大切に

鵠沼めぐみルーテル幼稚園　柏原咲子

新任教師歓迎会に参加し、礼拝での島田牧師先生の説教をお聞きして、年間聖句である「あふれる愛―小さきものとともに―」という言葉を、いつも心に留めておきたいと感じました。

島田牧師先生は説教の中で、「愛」という言葉の字を「吾異」としてお話しされており、そのことが強く印象に残っています。「吾と異なる人を愛す」私たち人間は一人ひとりがちがっていて、すべての人が愛されるべき存在です。自分とは異なる人を認め、互いに愛し合うことの大切さや、一人ひとりが神様に守られ、尊い存在であるということを、まずは自分自身がしっかりと受け止めていきたいと思います。そしてそのことを、日々の保育の中で子どもたちに伝えられるよう、また、「愛されている」と感じてもらうことができるように、丁寧に向き合い過ごしていきたいと思いました。

〈役員会報告〉

書記　奈良昌人

役員会は四月二日(月)、四月二十五日(水)、五月十七日(木)に開催されました。主なことを報告いたします。

◆四月十日(火)に開催された二〇一二年度総会議事録を承認しました。

◆キリスト教保育連盟第八十三回夏期講習会

七月二十六日(木)～二十八日(土)に横浜・パシフィコ横浜にて開催されました。神奈川部会は二十六日(木)の部会アワーを担当しました。プロテスタント教会発祥の地横浜をアピールすると共に歓迎の意味を込めて部会加盟各施設の映像を映し、その後ゴスペルシンガー国友淑弘さんと一緒に歌を歌いました。

◆新任歓迎会

四月二五日(水)清水ヶ丘教会にて行われました。島田勝彦部会長による礼拝の後、国友淑弘さんによるゴスペル歌唱指導が行われました。

◆第一回講演会

六月十三日(水)に清水ヶ丘教会にて。

講師　独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所理事長　小田　豊先生

演題「今後の幼児教育の動向と課題」

新・子育て支援システムについて先生ご自身の見解も含め、ユーモアたっぷりにお話し下さいました。

◆新任教師研修会

七月四日(水)開催されました。

・編集後記・

暑かった夏も盛りを終えようとしています。
全国の仲間を神奈川に迎えた夏期講演会も、神様のお見守りのうちに無事に行なわれました。
神奈川部会のそれぞれの働きに心から感謝致します。
また、お忙しい中原稿をお寄せ下さった各園の先生方、ありがとうございました。

発行日　二〇一二年七月二十六日
印刷所　樋口タイプ印刷
編集者　神奈川部会　広報担当
片瀬のぞみ幼稚園　草ヶ谷弘子
のぞみ幼稚園　藤田希恵子
イラスト提供　私塾まきば